

kfop



かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

## 講演会・意見交換会 報告書

「南相馬の今 わたしたちができること」

2016年1月9日（土）実施

かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop)

ホームページ <http://kfop.jimdo.com/>

代表メール [info.kfop@gmail.com](mailto:info.kfop@gmail.com)

2016年1月20日発行 不許複製・禁無断転載

## 1. はじめに

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）では、福島の実況を伝える事業の一環として、講演会・意見交換会を企画、開催しました。今回、テーマとして、2016年4月に避難指示解除を目指す南相馬市小高区に焦点を当て、現地の状況と今後の課題について情報を共有し、参加者それぞれに「自分にできること」を考えるヒントを持ち帰っていただくことを目指しました。

このような規模での講演会開催は初めてであり、終始手探りの状態でしたが、多くのご協力をいただき無事に終了することができました。またさまざまなバックグラウンド、立場の方々にご参加いただき、有意義な意見交換ができました。

## 2. 開催概要

### (1) 日時・式次第

#### **【第一部】 2016年1月9日（土）10:00～12:00（9:30開場）**

小高の今を知る ～避難指示解除を目指す小高区の状況～

〔会場〕 かながわ県民センター 2階ホール（神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2丁目24-2）

はじめに	かながわ「福島応援」プロジェクト 代表 渡辺孝彦
ご挨拶	神奈川県立かながわ県民活動サポートセンター所長 坂井雅幸 氏
〔情報提供〕	福島の実況について
〔お話〕	南相馬市役所 小高区役所長 村田博 氏 / 課長補佐 根本剛実 氏
〔お話〕	南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター長 鈴木敦子 氏
《進行》	NPO 法人日本ファシリテーション協会 災害復興支援室 杉村郁雄 氏
第一部閉会	
ご挨拶	神奈川県社会福祉協議会 地域福祉推進部 課長 飯島信彦 氏

#### **【ランチ】 同 12:00～13:00**

〔会場〕 かながわ県民センター3階 305会議室

#### **【第二部】 同 13:00～15:00（12:00開場）**

私たちに何ができるか考えよう ～現地で、神奈川から、それぞれの形で～

〔会場〕 かながわ県民センター3階 305会議室

はじめに	kfop 渡辺孝彦
〔情報提供〕 現地動向紹介	kfop 戸沢正弘
〔情報提供〕 神奈川における広域避難の状況	kfop 東尚子
グループセッション	《進行》 FAJ 杉村郁雄 氏
まとめ	

## (2) 参加者について

ご来場人数：第一部 114 人／第二部 60 人（スタッフ含む）

南相馬市でのボランティア経験者のほか、その他のボランティア経験者、南相馬市からの来場者、神奈川県への避難当事者など、被災地に関心を持つ多様な方々がお見えになりました。

## (3) ご登壇者について

### ●村田博 氏

南相馬市役所 小高区役所長

南相馬市小高区のご出身で、区役所では地域振興などに携わってこられたこともあり、地域の方々との顔が見える付き合いを通じ、住民がどのように暮らしてきたのかを熟知されています。震災ではご自身のお住まいも津波で被災し、そして続く福島第一原発事故により避難を強いられました。

震災直後は原町区にある市役所本庁舎で復旧に向けて業務を継続し、2013 年 4 月に小高区役所が業務再開してからは再び小高区で、市民との懇談会でも自ら現状を説明し質疑応答に臨むなど、住民の声に耳を傾けながら陣頭指揮を執っておられます。

### ●鈴木敦子 氏

南相馬市社会福祉協議会 南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター長

南相馬市社会福祉協議会が小高区内に設置している災害復旧復興ボランティアセンター（社協ボラセン）では、被災した小高住民のニーズ調査やボランティア派遣を行っています。とはいえ小高区は大部分が避難指示解除準備区域であり（準備宿泊を申請しない限り）住まいがあっても宿泊はできません。遠方に避難されている方がボランティア派遣を依頼し、日程調整をして当日立ち会うのも簡単ではなく、少しずつ少しずつ、ボランティアの手も借りながら復旧復興に向けて進んでいる状況です。

長く地域福祉に携わってこられた鈴木氏は、災害復旧復興という畑違いの業務でありながら、静かに落ち着いて現場で指揮を執られています。ボランティア活動から戻った参加者に自ら手作りのスープなどを振る舞うこともあり、会話をしているとその温かな人柄が伝わってきます。

## (4) ご協力

本講演会・意見交換会の開催にあたり、職員のご登壇をご快諾いただいた南相馬市、社会福祉法人南相馬市社会福祉協議会のほか、神奈川県立かながわ県民活動サポートセンターには協力事業としてのご支援と所長によるご挨拶、社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会には閉会ご挨拶と広報にご協力いただきました。

また、かながわ県民活動センターに設置されている「かながわ災害救援ボランティア支援室」の登録団体のうち、特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会、NPO 法人かながわ 311 ネットワーク、かながわ災害ボランティアバスチーム、チームかながわ SUN に広報協力をお願いしました。

第一部の情報提供および質疑応答での進行、第二部全体の進行は、NPO 法人日本ファッション協会 災害復興支援室 杉村郁雄 氏にご担当いただきました。

### 3. 詳細

#### (1) 第一部

##### はじめに

kfop 代表の渡辺より、講演会・意見交換会の趣旨説明をし、東日本大震災の犠牲者への黙とうを行いました。

##### ご挨拶

神奈川県立かながわ県民活動サポートセンターの坂井所長より、開催にあたってご挨拶を頂きました。東日本大震災から 5 年近くが経過し、岩手、宮城、福島それぞれ状況が違う中で、福島は原発事故という他とは違う苦しみを抱えていること、今回は現地の事情を知る貴重な機会として、何ができるかご自身も一緒に考えたいとの言葉がありました。



##### 〔情報提供〕 福島の現状について

kfop スタッフ戸沢より、はじめに福島県の全体的な状況を説明しました。福島県の特産品や観光地、南相馬市の特産品と観光資源、東日本大震災での被害情報などを伝えました。

##### 〔お話〕 南相馬市役所 小高区役所長 村田博 氏 / 課長補佐 根本剛実 氏

スライド資料を使い、以下の点についてご説明いただきました。

- ・ 福島原発事故の主要な時系列
- ・ 警戒区域から避難指示区域の見直し  
 地元で議論があったが、市長としては区域の見直しをしないと復興が進まないと判断。
- ・ 被害状況
- ・ 居住者の年代分布  
 生産年齢人口が 13,031 人減、企業が進出しても働く人がいない。

- ・ 現在の状況  
教育委員会では小高区の小中学校の再開時期を H28 年度 2 学期として検討しているが、鹿島区に通学している児童からは、今まで勉強してきた学校で一緒に卒業したいという思いもある。  
南相馬市内の医療機関のうち稼働は半分、小高区内の診療所は休止中。帰還する方々に大きな影響がある。高齢化が進み、医者、歯医者がどうしても必要。
- ・ 求人倍率  
求人数は多いが求職ニーズ（長期・安定）とミスマッチ。
- ・ 広域インフラ  
常磐自動車道は H27 年 3 月に全面開通したが、いわき中央から北は片側 1 車線。除染廃棄物の運搬が始まると 1 車線では渋滞になり対応できない。2 車線化を要望している。  
JR 常磐線は H28 年 4 月に小高駅まで再開する。
- ・ 小高区住民意向調査の結果  
年配の世代では条件が整えば戻るという回答が多い。家の修繕の目処が立たない。  
最大 4~5,000 人が戻ると想定している。
- ・ 最近の小高区の動き  
菜の花プロジェクト、小高区復興夏祭り、鎮魂と復興の花火、小高区復興文化祭、イルミネーション、東町エンガワ商店、小高病院の診療再開、慰霊祭、出荷米の全袋検査、海岸堤防工事（高さ 7.2 メートル、H29 年度完成予定）、廃棄物焼却施設、放射性廃棄物の仮置場。H28 年 3 月に宅地の除染終了予定。
- ・ 日常生活の課題  
医療機関の再開。  
商店の再開。  
スタッフの不足。医療スタッフ、介護士、保育士は募集しても集まらない。  
雇用の確保。若い人は、雇用、教育の場がないと帰ってこられない。  
地域コミュニティの崩壊。行政区の統廃合も必要。高齢化、限界集落化のおそれ。  
地域の防犯。最近火災があったが消防団もなく、なすすべもなく全焼した。

「課題をひとつひとつ整理し解決に向けて努力していく。

神奈川の方には福島を忘れないでほしい。

起こったことはしかたない、元には戻れないので、前に向かって考えたい。」

との言葉で話を締めくくられました。

会場に来られていた小高区の仮設商店「東町エンガワ商店」マネージャー、常世田さんにもコメントを頂戴しました。

「お客様のほとんどは高齢者で、若い世代はほとんど見かけない。

いてもボランティアか、スタディツアーなどで来る人。子どもが来るとうれしい。

除染などの作業員も店に来てくれる。除染というと悪いイメージを持つ人もいるが、小高のため住民のために仕事をしてきている大切なお客様と考えている。」

## 質疑応答

- Q 実家が相馬だが、商店が減ってしまい、ショッピングセンターに行かないと商品が手に入らず不便な状況。商店の再開はぜひお願いしたい。
- A 商店の再開はなかなか難しい状況。再開する事業者向けの報奨金制度もあるが、お客が見込めないと難しい。申請は12~13件あるが、食料品関係は特に難しいようだ。
- Q 小高では農業をやっていた方が多いと思うが、年配の人は今後続けるのは難しいのではないかと。引きこもりのおそれがある。
- A 小高の産業といえば農業だが、ほとんどが兼業農家。農地除染の問題もある。帰った時に土いじりができないと…。対策が大切だと認識している。
- Q (司会) 挙げられた課題以外にも、孤立の問題、高齢者の移動支援の必要性、県外からの住民の受け入れといった課題も考えられる。それを踏まえて、最後にそれぞれコメントをお願いします。
- A (村田) 県外からの人が多いのは事実。介護タクシーをやろうという人もいる。高齢者だけでは地域は成り立たない。具体的には言えないが、見守りをするシステムは必要。  
(根本) 実家は農家だが、検査で安全性を確認し、家族も食べている。安全をPRして復興を進めていきたい。

[お話] 南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター長 鈴木敦子 氏  
主に写真のスライドショーを使い、以下の点についてご説明いただきました。

- ・ ボランティア数  
昨年度から集計を始めたが、神奈川県からのボランティアは全国で2番目に多い。
- ・ 仮設住宅でのボランティア  
外から来た人だから話せる話もある。携帯電話教室を企画したら、すぐに定員一杯に。  
いまは仮設住宅支援のボランティアは新規募集していない。  
新しく来る人に震災の話を一から(被災当時のことから)話すのはつらい。
- ・ 屋外活動のボランティア  
ゴミの回収は条件が厳しい。年配の方が決まりどおりに分別して出すのは大変な手間。  
草刈りや伐採も依頼される。危険な作業は業者にとお願いしているが、除染作業との関係など、さまざまな事情でボランティアセンターに依頼されている現状。  
ビニールハウスの解体などもある。
- ・ ボランティア活動後の労い  
かき氷、餅つき、年越し蕎麦など、ボランティアが盛り上げてくれる。
- ・ 企業の再開の実情
- ・ 震災直後の状況
- ・ 現在の状況  
アンテナショップ、菜の花プロジェクト、仮設商店



「おだかのひるごはん」は、小高で唯一、温かい食事が提供される店  
小高夏祭り、イルミネーション  
復興住宅  
相馬野馬追、イベント参加へのボランティア

「8月31日より一時宿泊が開始され、1,000人あまりが申請している。  
迷っている人には迷うための時間が必要。戻ってくる人も新しく来る人も皆、となり組。」  
との言葉で話を締めくくられました。

### 質疑応答

- Q 避難指示解除後に、コミュニティをつくるためボランティアができることは？  
小高でもサロンなどは考えているか？
- A サロンはやりたいと思っている。ボランティアも募集したい。
- Q 小高で活動する者同士の情報伝達が不足。ボランティア間の情報伝達の場合が必要。
- A 解除のあともボランティアのニーズが増えると予想している。2つのVCそれぞれが互いに尊重して活動できれば。
- Q 先ほどの写真で、チェーンソー作業で革手袋や保護ズボンなどしていないように見えた。電動機具を使用した作業には安全講習の受講が前提だと聞かすが、ボランティアセンターで講習をするのか、自己申告なのか。
- A チェーンソー作業はやるべきではないという議論も内部でたびたびある。現状は自己申告になっている（確認はしていない）。ただし講習だけで使用経験のない方が初めて使用することのないように配慮している。経験の長いボランティアの方々が現場で注意を払ってくれている。
- Q プロならともかく、ボランティアがチェーンソー作業をやるべきではない。小高では住居を囲む居久根（いぐね）もどンドン伐採しているが、景観の維持などの面で問題があるのでは。ボランティアセンターはどう考えているのか。
- A ボランティアセンターとしては、依頼主の意向に任せるしかない。景観について意見する立場にない。
- A （南相馬市からの参加者のコメント）依頼主の要望に添って作業しており、勝手に切るとは絶対にしない。木の伐採を依頼する理由は、せっかく除染しても葉が落ちることでまた線量が高くなってしまうから。業者に頼んだがいつになるのかわからないとの声がある。木の伐採については森林組合で引き受けているが、人手が足りない。
- Q 小高をどのような町にするのか、住民の声が反映されているのか、将来に向けてどのようなビジョンをお持ちか。（個人として）

A 病院は診療再開したが薬局がないため、隣の原町まで行っている現状。こうしたことを改善したい。以前あった100円タクシーが復活するのいいと考えている。避難指示解除後は見守り活動にたずさわりたい。

Q (司会) 今日、わたしたちができることを考える場です。  
南相馬のために神奈川でこれだけの人が集まっているというのはすごいことです。  
登壇者の皆様に最後に一言ずつお願いします。

(村田) 復興の道のりはまだ半ば。これからもご支援をお願いしたい。

(根本) 人が戻るまでには時間がかかる。これからもご支援をお願いしたい。

(鈴木) 人がどう動いていくのか、組織の中で考えていきたい。





## 第一部閉会

神奈川県社会福祉協議会 地域福祉推進部 課長 飯島信彦 氏にご挨拶を頂戴しました。

震災や原発事故について、大きな枠組みの中ではわかっているつもりになっても、現場の話を知るといろいろな課題もわかってくる。支援をおこなっている団体への支援などが、私たちにできることの一つではないか。これから神奈川でも起こりうることを考えながら行動したい、とのお言葉がありました。

## (2) ランチタイム

昼食をお持ち込みの参加者のために第二部の会場を開放しました。

また現地の紹介の一環として、南相馬市の小高商業高校 商業研究部が地域の活性化を目的に考案した「小高だいこんかりんとう」や名物のお菓子などをご用意しました。

## (3) 第二部

### 〔情報提供〕 現地動向紹介

kfop の戸沢から、現地でのボランティア活動の動向について簡単に説明しました。

- ・ kfop の活動について  
街中清掃、避難している方のお手伝い、神奈川県内の支援団体への協力、情報発信。  
メンバー総数 263 名（年齢 18～75 歳、平均年齢 40 代、男性 6 割、女性 4 割）。
- ・ 福島県への県外からの支援状況  
ボランティア活動者数は減少傾向にある。
- ・ 南相馬で活動している関東近郊の主な団体の紹介  
週末中心、定期的に実施している団体も多い。
- ・ ボランティア活動の流れ（kfop の場合）の紹介
- ・ その他の地域の活動紹介  
足湯、農業支援、仮設住宅訪問・イベント

### 〔情報提供〕 神奈川における広域避難の状況

kfop の東から、広域避難の状況について簡単に説明しました。

- ・ 広域避難（県外避難）について
- ・ 福島県の避難者に関するデータ  
避難者数（復興庁）、関連死（復興庁、福島県）、「住民意向調査」（復興庁と市町村）、「避難者意向調査」（福島県）、「避難実態調査」（内閣府）を紹介。  
被災 3 県から神奈川県への避難者数 3,649 人、うち福島県から 3,069 人。
- ・ 広域避難者支援の状況  
福島県では自主避難者への借上げ住宅の供与を平成 29 年 3 月で打ち切る。それに代わる新たな支援策は限定的であり、福島県に戻らない人は自力で生活せざるを得ない。
- ・ 福島県・市町村の復興支援員の設置状況

- ・ 神奈川県における避難者支援  
公的な組織による支援、民間による支援、弁護士相談・集団訴訟、避難当事者団体。  
kfop は、かながわ避難者と共にあゆむ会と協力して交流会などを共催している。  
当事者向けの会報を月刊で発行。
- ・ 避難者・支援者が抱える課題  
長期避難によるストレスや疲労  
住まいの問題  
日常生活での負担  
子どもの進学・受験  
被災者・避難者に対する支援の縮小  
コミュニティ・絆の維持



### グループセッション

FAJ 杉村氏より、グループセッションの進め方について説明していただいた。セッションのゴールと合わせ、当事者を含め様々な立場の方が参加されていることを念頭に置いていただくことをお願いしました。

ゴール：「わたしたちにできること」のヒントをたくさん持ち帰る

お願い1：話を聴き合う場をみんなで作ろう！

お願い2：意見の違いを楽しもう！

はじめに、なるべく知らない人同士で話せるよう席替えをお願いし、8個のテーブルに分かれて1人ずつ関心があることを話していただきました。次に、「南相馬に対してどのようなことができるか、どのような関わりが考えられるか」について、自分が話したいテーマをA4用紙に1人ずつ記入していただきました。

次に、記入したテーマが近い人同士でグループになるよう再び席替えをお願いしましたが、テーマを特に決めないフリートークのテーブルもOKとしました。このグループでは、話した内容を模造紙にメモしながらセッションを進めていただきました。

### 各グループのテーマ

- ・ 除染について
- ・ 被災された方が戻るために必要なこと
- ・ 若い世代を呼び込むためには
- ・ いま自分にできること
- ・ 被災地に行かずに神奈川でできること
- ・ 何をすれば活動を継続できるか
- ・ ボランティアセンターについて

以下、すべてではありませんが、各グループのセッション内容を抜粋して記録しています。

### 除染について

- ・ まだ復興よりも復旧が先。
- ・ 完全に除染が完了し納得できないと帰還はできない。
- ・ 森林、水源地など汚染状況の正しい状況把握、公表が必要。
- ・ 関わり方としては、現状を周りに伝え、事実の公表を促す。

### 被災された方が戻るために必要なこと

- ・ 高齢の世代は慣れ親しんだ地域コミュニティへの愛着がある。
- ・ 若い世代は都会への順応性が高い。震災前から若者は都会に出ていた。震災で加速。
- ・ 震災当時に賃貸住宅に住んでいた場合は、戻る家がない。家財を運び出す必要がある。
- ・ 原町区では除染が終わったのは先月。避難したくてもできなかった。
- ・ 雇用（賃金が安定した長期の仕事）。
- ・ 地域の魅力が必要。野馬追、サムライフェス、原町の海岸、サーフィン。
- ・ 宿泊施設が不足。震災後に会津は観光客が増加したが、浜通りは減少。

### 若い世代を呼び込むためには

- ・ 南相馬を知ってもらう→行ってもらう→良さを分かってもらう。
- ・ どう伝えるか。きっかけが必要。クチコミ、フリーペーパー、イベント。
- ・ 安全性を理論的に説明し、理解してもらう。誤解を解く。行政のサポートも必要。

### いま自分にできること

- ・ ボランティア経験はないが、神奈川でできることはないか。
- ・ 当初は被災地の状況が分からず、行くのを躊躇した。
- ・ 地理的に現地に行くことが難しくなったが、支援を続けたい。現地の人の声を聴きたい。
- ・ なぜ続けていけるのか、支援を続けている人の心を知りたい。
- ・ 自分の職種・立場を支援に活かせれば。
- ・ 声を上げられない人（立場的に弱い人など）の声をどのように吸い上げられるか
- ・ 部外者だから話しやすいこともある。

- ・ 忘れないこと、このようなイベントに参加する気持ちも大事。
- ・ 福島の物産を買うなど、できることはある。
- ・ 継続していくこと。

#### 被災地に行かずに神奈川でできること

- ・ 現地に行かない人はボランティアをしていないと思いがち。
- ・ 現地に行く人と行けない人をつなげる。
- ・ 神奈川県内で同じような活動をしていても横のつながりが無い。
- ・ イベントなどに行く。横のつながりを作る。知っている情報の拡散。伝える。
- ・ 自分で情報を集めるのは大変。気軽に情報を受け取れる SNS は便利。

#### 何をすれば活動を継続できるか

ボランティアやボランティアバスが減少傾向にあるが、どうにかならないか。

- ・ 現地に付加価値があるとボランティアに限らず多くの人に来てくれるのでは。現地のグルメやお酒などの情報を集約して発信するなどのブランディングができるといい。アニメの聖地というアイデアは人が集まりやすい。
- ・ 交通費が高いので足が遠のいてしまっているのでは。高速代の補助制度があるといい。
- ・ 物品販売やイベントなどで資金を集める。
- ・ ボランティアバスの運行側も、魅力のある企画、付加価値のあるプランを考える。
- ・ SNS での情報の収集と発信が効果的。
- ・ 大勢の方がボランティア活動を長く続けるには「気持ち」と「費用」が続くこと。

#### ボランティアセンターについて

南相馬市小高区には2つのボランティアセンターがある。それぞれの立場などを整理。

誰でも参加可能な社協ボラセンと、経験者や専門性のある人を求める活動センター。

危険を伴う作業に関する考え方。

それぞれ方針と活動内容が少し異なっており、それはそれでいいのでは。

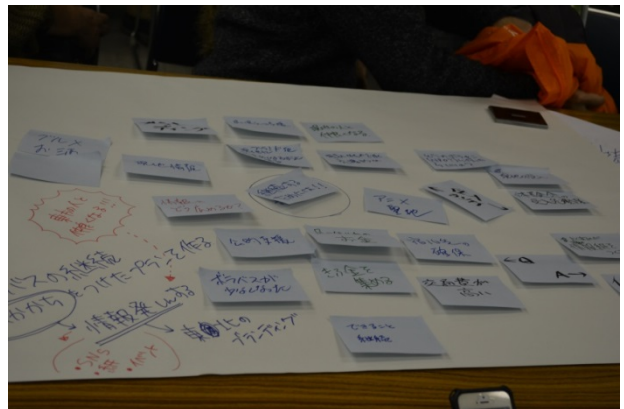
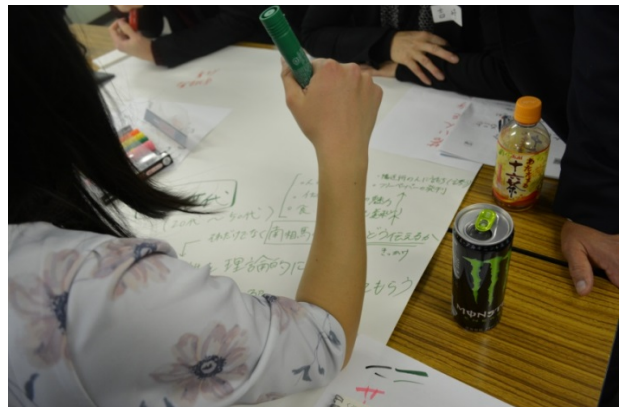
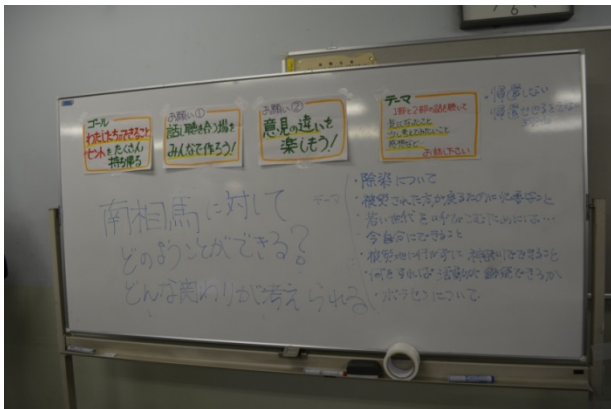
#### その他（フリートーク）

- ・ 市内の仮設住宅で子どもたちが関われるイベントを企画している。
- ・ 大人がお酒を飲める場・機会も必要。花見などはどうか。
- ・ 自分は当事者だけれど、今後は自分にできることを見つけて他者への支援をしたい。
- ・ 先の見通しが全くつかない、帰れない我が家のことが気になる。
- ・ 原発事故さえなければ、このような思いはしなかった。
- ・ だれが責任を取ってくれるのか分からない。自民党には任せられない。
- ・ 避難解除が出て、生活ができないから戻れない。特に移動や買い物が難しい。
- ・ 似顔絵や写真洗浄のボランティアをしていた。体力的に無理のない範囲で何かできないか情報を探しにきた。
- ・ 震災前から集落の人たちと会う機会があり、震災後も仮設で会っていた。避難解除後は、集落のほとんどの人が地元に戻るので自分も戻る。買い物など生活に不安はあるけど何と



かなる。

- ・ 自宅の解体等で、避難先から地元の行政に何度も足を運んだが、話がスムーズに進まずに大変だった。
- ・ 自宅は動物の侵入やカビの影響で修繕が必要。また窓もしっかりと閉まらないので、隙間から砂ぼこりが入ってしまう。行政に大工などの情報を聞こうとしても、そういう紹介はやっていないとのことでどうにもならない。今日は何か情報が得られると思ってきたけど、こういう話（グループワーク）だとは知らずに来てしまった。
- ・ 地元に来てくれるボランティアに感謝している。







最後に、いくつかのグループで話した内容を発表していただきました。  
長時間にわたり、熱心なご参加ありがとうございました。

以上

(報告書作成：kfop 広報担当 東尚子)

## 4. 資料

### (1) 広報用チラシ

# 南相馬の今 わたしたちができること

2011年3月11日に東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が発生してまもなく5年が過ぎようとしています。

2011年12月に発表された警戒区域再編後、避難指示解除を目指す区域としては対象世帯数が最大となる南相馬市小高区。解除目標である2016年4月に向けた現地の状況と取り組みについてお話を伺います。

そこから、わたしたちに何ができるのか一緒に考えてみませんか。



## 開催日：2016年1月9日（土）

### 第一部 10:00～12:00（9:30開場）

【会場】かながわ県民センター2階ホール

定員200名  
（先着順）

小高の今を知る ～避難指示解除を目指す小高区の状況～

【お話し】南相馬市役所 小高区役所長 **村田博氏**  
南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター長 **鈴木敦子氏**

### 第二部 13:00～15:00（12:00開場）

【会場】かながわ県民センター3階 305会議室

定員50名  
（先着順）

私たちに何ができるか考えよう  
～現地で、神奈川から、それぞれの形で～

【お申し込み】 ホームページ、メールで事前お申し込みを受け付けます。当日のご参加も可能です。（裏面参照）

参加費無料

〔主催〕 かながわ「福島応援」プロジェクト (kfop) <http://kfopjimdo.com/>

〔協力〕 南相馬市、社会福祉法人南相馬市社会福祉協議会、神奈川県立かながわ県民活動サポートセンター、社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会、特定非営利活動法人日本ファシリテーション協会

〔広報協力〕 特定非営利活動法人かながわ避難者と共にあゆむ会、NPO法人かながわ311ネットワーク、かながわ災害ボランティアバスチーム、チームかながわSUN



## 参加お申し込みについて

資料準備の都合上、なるべく事前のお申し込みをお願いいたします。

●ホームページのフォームから  
<http://goo.gl/GcIbZ8>

●電子メールで  
[info.kfop@gmail.com](mailto:info.kfop@gmail.com)

メールの場合は件名を「1/9講演会申し込み」としてお名前、第一部参加・第二部参加の明記、ご参加人数、ご連絡先メールアドレスをお知らせください。受付状況について返信を差し上げる場合がございますので、上記アドレスからのメールを受信できるように設定をお願いいたします。



申し込みフォーム

## プログラム

### 【第一部】 10:00～12:00 (2階ホール)

南相馬の今 小高の今を知る  
 ～避難指示解除を目指す小高区の状況～

- ・はじめに
- ・現地からの報告

スピーカー1: 村田 博 氏  
 南相馬市役所 小高区役所長

南相馬市小高区出身。  
 震災直後は原町区にある市役所本庁舎で復旧に向けて業務を継続し、2013年4月に小高区役所が業務再開してからは再び小高区で、区民の声に耳を傾けながら陣頭指揮を執る。

スピーカー2: 鈴木 敦子 氏  
 社会福祉法人 南相馬市社会福祉協議会  
 災害復旧復興ボランティアセンター長

鈴木氏が責任者を務めるボランティアセンターでは、被災した小高区民のニーズ調査やボランティア派遣を行っている。  
 温かな人柄で、ボランティア参加者に手作りのスープなどを自ら振る舞うこともある。

- ・意見共有

### 【ランチタイム】 12:00～13:00 (3階 305会議室)

交流と情報交換にご活用ください。昼食は各自ご持参ください。

### 【第二部】 13:00～15:00 (3階 305会議室)

私たちに何ができるか考えよう  
 ～現地で、神奈川から、それぞれの形で～

- ・民間団体などの活動や動向の紹介
- ・意見交換



〔会場〕 かながわ県民センター  
 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2丁目24-2

#### ◎交通案内

- (1) 横浜駅「中央通路」から「西口」へ  
 ⇒ 右手に進みモアースの前を道なりに  
 ⇒ 「ヨドバシカメラ」の角を右折  
 ⇒ 「西鶴屋橋」と信号を渡る  
 ⇒ 「かながわ県民センター」
- (2) 横浜駅「きた通路」から「きた西口」へ  
 ⇒ 最初の角で「鶴屋橋」を渡る  
 ⇒ 橋を渡ったらすぐ左折  
 ⇒ そのまま直進して信号を渡る  
 ⇒ 「かながわ県民センター」

チラシ裏面

(2) 当日配布プログラム



【講演会・意見交換会】

# 南相馬の今 わたしたちができること

**開催日：2016年1月9日（土）**

**第一部 10:00～12:00（9:30 開場）**

小高の今を知る ～避難指示解除を目指す小高区の状況～

【会場】 かながわ県民センター2階ホール

**第二部 13:00～15:00（12:00 開場）**

私たちに何ができるか考えよう

～現地で、神奈川から、それぞれの形で～

【会場】 かながわ県民センター3階 305会議室

## 5. ごあいさつ

本日はご来場いただきありがとうございます。

2011年3月11日に東日本大震災と東京電力福島第一原発事故が発生してまもなく5年が過ぎようとしています。2011年12月に発表された警戒区域再編後、避難指示解除を目指す区域としては対象世帯数が最大となる南相馬市小高区。解除目標である2016年4月に向けた現地の状況と取り組みについてお話を伺います。そこから、ご参加の皆様とともに「わたしたちに何ができるのか」を考え、意見交換ができれば幸いです。

## 6. プログラム

### 第一部 10:00～12:00 【2階ホール】

はじめに	かながわ「福島応援」プロジェクト 代表 渡辺孝彦
ご挨拶	神奈川県立かながわ県民活動サポートセンター所長 坂井雅幸 氏
〔情報提供〕	福島の現状について
〔お話〕	南相馬市役所 小高区役所長 村田博 氏 / 課長補佐 根本剛実 氏
〔お話〕	南相馬市災害復旧復興ボランティアセンター長 鈴木敦子 氏
《進行》	NPO 法人日本ファシリテーション協会 災害復興支援室 杉村郁雄 氏
第一部閉会	
ご挨拶	神奈川県社会福祉協議会 地域福祉推進部 課長 飯島信彦 氏

### ランチ 12:00～13:00 【305会議室】

よろしければ昼食をお持ち込みいただき交流にご活用ください。

正面玄関の反対側の出口すぐにコンビニがございます。

横浜西口地下街ジョイナス「ダイヤキッチン」エリア（地下1階）にもお弁当・お総菜の売り場がございます。

少しですが現地で購入したお菓子もご用意しています。

### 第二部 13:00～15:00 【305会議室】

はじめに	
〔情報提供〕 現地動向紹介	kfop 戸沢 正弘・村上 幸
〔情報提供〕 神奈川における広域避難の状況	kfop 東 尚子
グループセッション	(進行) FAJ 杉村郁雄 氏
まとめ	



## 7. かながわ「福島応援」プロジェクトについて

当会は、かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業で活動していたボランティアの中から福島に想いを寄せるメンバーが集まり、2011年10月から活動を始め、2012年1月に任意団体を設立、現在に至るまで福島に関わる活動を続けています。役員は4名、協力スタッフ・メンバーが約270名います。

福島の現地を訪れてのボランティア活動を大きな柱として、ボランティアバスは現在までにほぼ月1回、合計58便を企画・運行しました。有志での活動として、川内村の方からもお声掛けいただきお手伝いさせていただきました。また別の柱として、神奈川県内では、震災と原発事故の影響で避難されている方々を支援する活動にも関わっています。

さらに、現地の状況を知り、伝えるための活動として、今年度は現地視察研修を2回実施しました。また、新たな取り組みとして、2015年8月に有志メンバーで「美味しいふくしま伝え隊」として1日イベントを行い、大きな手応えを得ました。今回の講演会も、現地の情報を伝えるための活動の一環として企画・実施しました。その主旨は、東日本大震災と原発事故を『風化させない』こと、地元の現状を『正しく知る・伝える』こと、自分たちにできることを『考える』ことです。神奈川県内の皆様にぜひ関心をお寄せいただき、ご参加いただけると幸いです。

## 8. Memo

